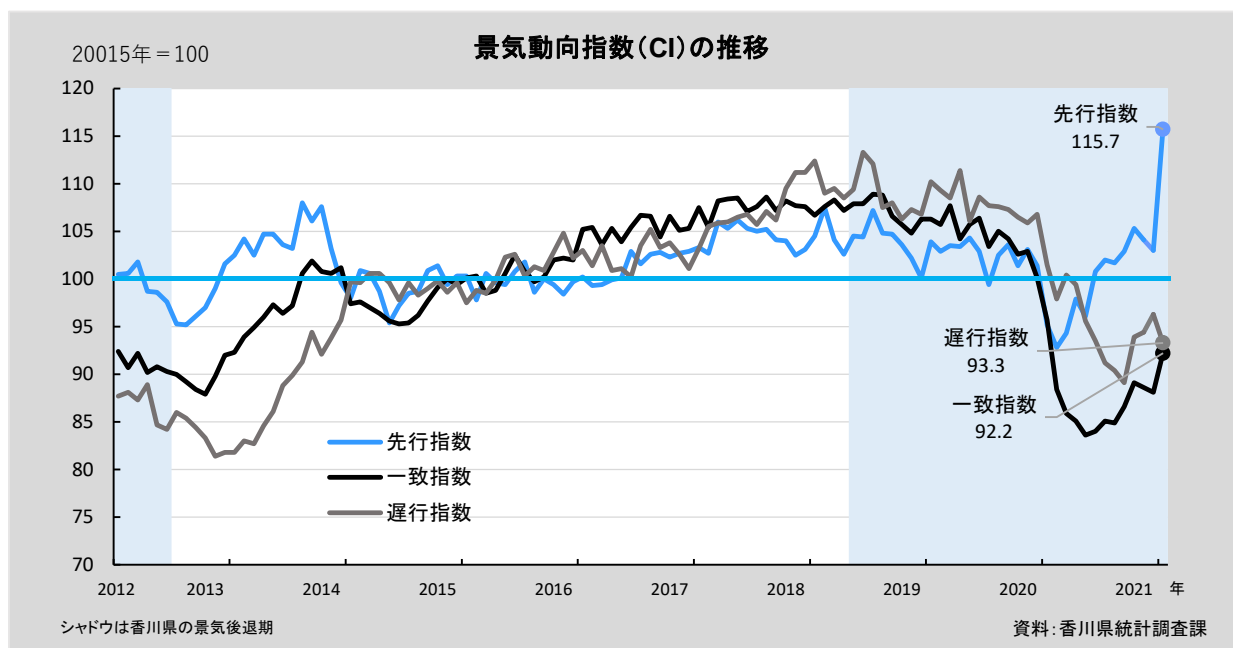


概況	景気は持ち直しつつあるが、感染再拡大の影響で弱い動きとなっている。
個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる。
住宅投資	横ばい圏内の動きとなっている。
公共投資	高水準で推移している。
生産活動	緩やかに持ち直している。
雇用情勢	弱い動きとなっている。
貿易	輸出・輸入ともに弱い動きとなっている。
観光	弱い動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 3カ月ぶり上昇



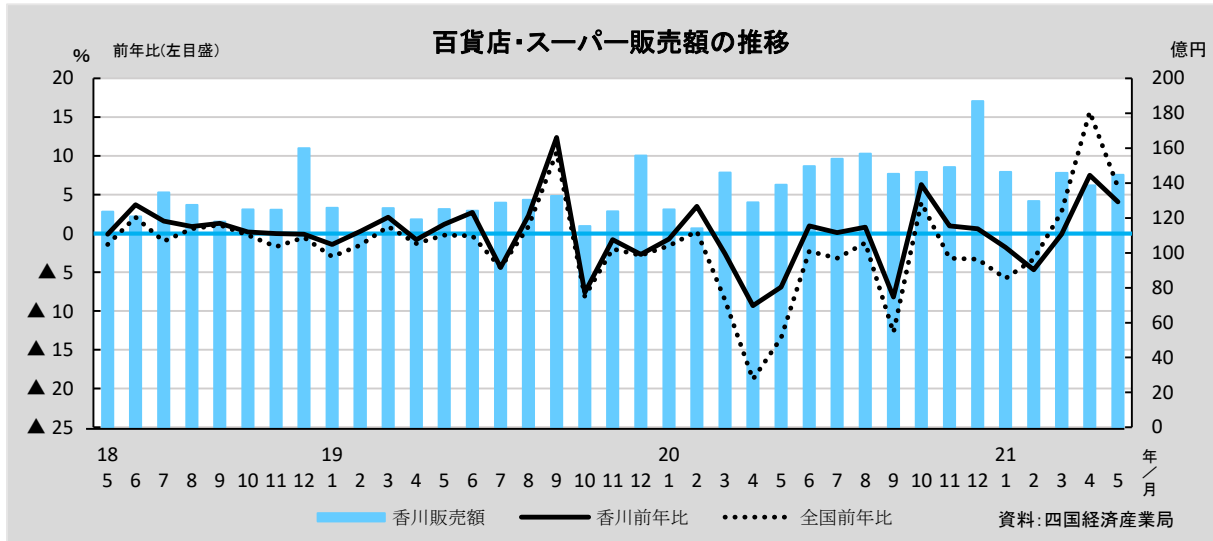
景気の現状をみると、4月のCI一致指数は92.2（前月比+4.1ポイント）と3カ月ぶりに上昇。CI先行指数は115.7（同+12.7ポイント）と3カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は93.3（同▲3.0ポイント）と4カ月ぶりに下降。

景気の先行きを示す先行系列の個別指標では、新規求人数、鉱工業在庫率指数、乗用車新車登録台数等が上昇に寄与したことにより、前月から12.7ポイントの大幅上昇となった。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	3.31	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.25	1 常用雇用指数	▲ 0.53		
	2 乗用車新車登録台数	2.40	2 有効求人倍率	0.82	2 有効求職者数	▲ 1.41		
	3 鉱工業在庫率指数	2.52	3 所定外労働時間指数	▲ 0.04	3 消費者物価指数	▲ 0.73		
	4 生産財生産指数	1.85	4 鉱工業生産指数	0.68	4 家計消費支出	1.13		
	5 新設住宅着工戸数	1.73	5 鉱工業出荷指数	0.91	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.14		
	6 金融機関貸出残高	0.99	6 建築着工床面積	0.72	6 法人事業税調定額	▲ 0.34		
	7 消費者態度指数	0.03	7 百貨店・スーパー 既存店販売額	1.23	7 第3次産業活動指数	▲ 0.83		

●百貨店・スーパー販売額

2 カ月連続増加 ↑



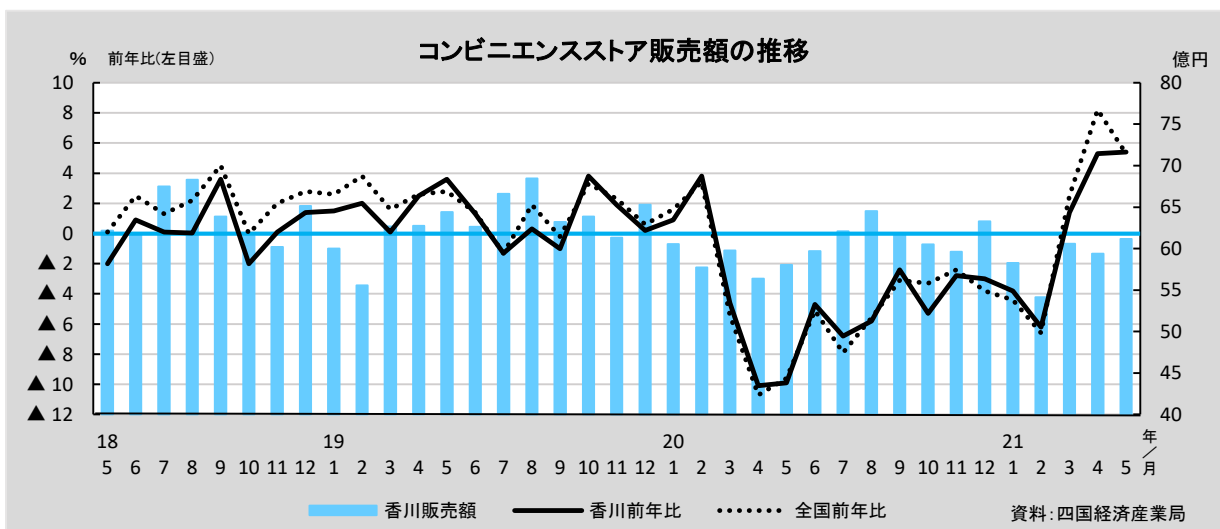
2021/5月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	95,944	48,825	1,092,016	1,881	7,524	25,366	175,570	321	1,447,447
前年同月比(%)	36.2	47.3	1.3	27.9	23.1	▲74.9	74.8	65.5	4.1

5月の百貨店・スーパー全店（84店）の販売額は、144.7億円で前年同月比+4.1%となった。前年5月は緊急事態宣言で入店客数が減少し売上げが落ち込み、ほとんどの品目で反動増がみられた。「飲食料品」や「衣料品」等が前年を上回り2カ月連続で増加した。

一方、「家庭用品」は、台所用品が好調だった前年同月の反動減で▲74.9%となった。

●コンビニエンスストア販売額

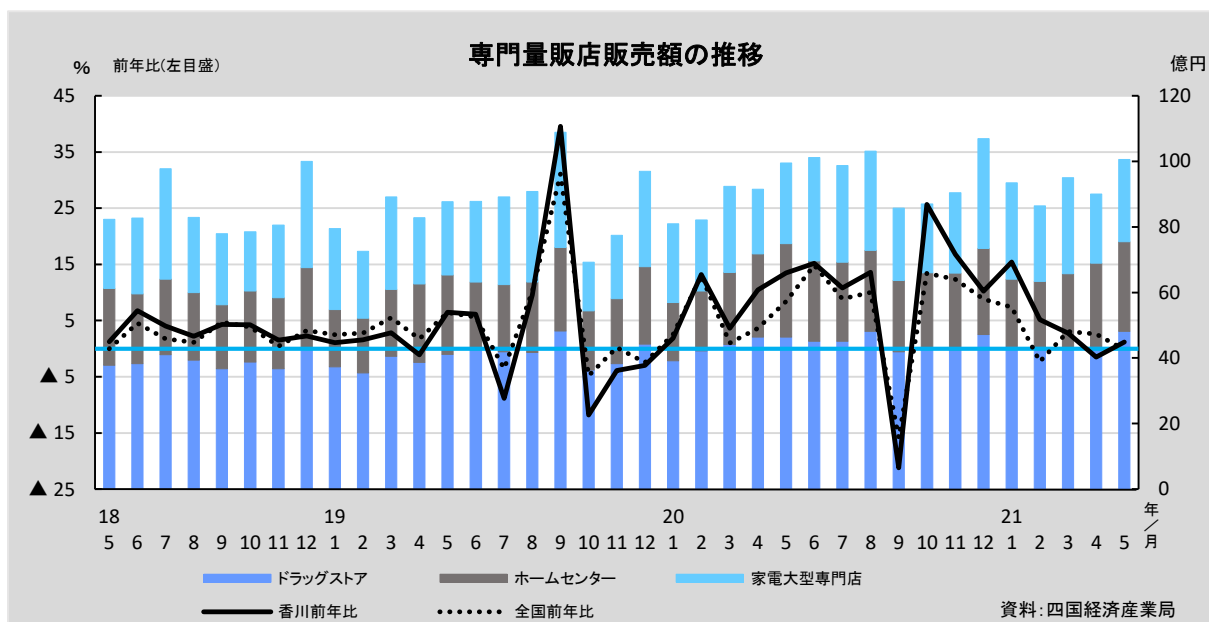
3 カ月連続増加 ↑



5月のコンビニエンスストア全店（407店）の販売額は61.2億円で、前年同月比+5.4%となった。冷凍・インスタント食品・アルコール飲料などが好調に推移し3カ月連続の増加となった。

● 専門量販店販売額

2 カ月ぶり増加

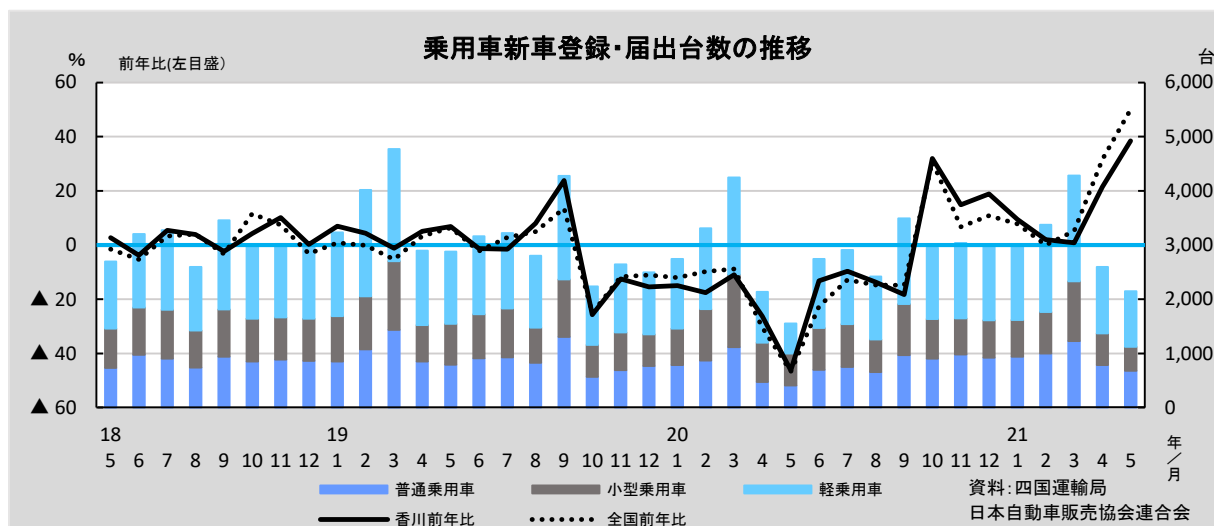


5月の専門量販店全店（202店）の販売額は100.6億円で、前年同月比+1.2%と2カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、携帯電話が伸長し**家電大型専門店**（29店）の販売額は、25.1億円で前年同月比+2.5%となった。**ドラッグストア**（129店）の販売額は、前年の反動減がみられたものの、飲食料品が堅調に推移し、48.2億円で同+3.7%。**ホームセンター**（44店）はDIY用具・素材、園芸用品・衛生用品などに反動減がみられ、販売額は27.3億円で同▲4.1%となった。

● 乗用車新車販売台数

8 カ月連続増加



5月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,148台で、前年同月比+38.5%と8カ月連続で増加となった。ただし、コロナ禍以前の2019年5月比では▲25.5%と需要が大きく低下している。

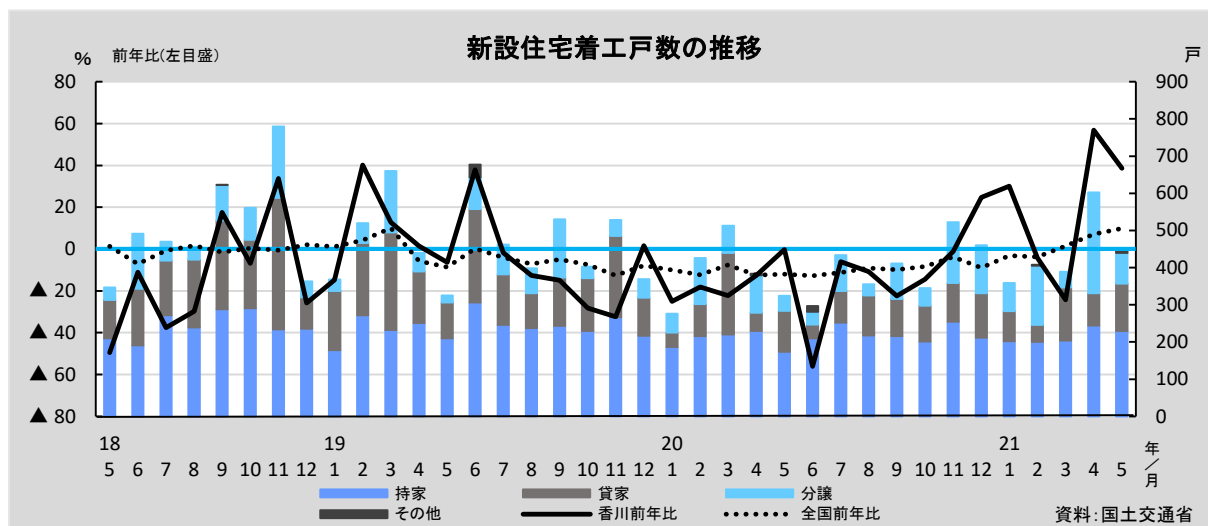
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+66.2%、軽乗用車で同+85.3%と増加した。小型乗用車は、半導体不足による減産で同▲24.4%となった。

住宅投資

横ばい圏内の動きとなっている

●新設住宅着工

2カ月連続増加 ↑



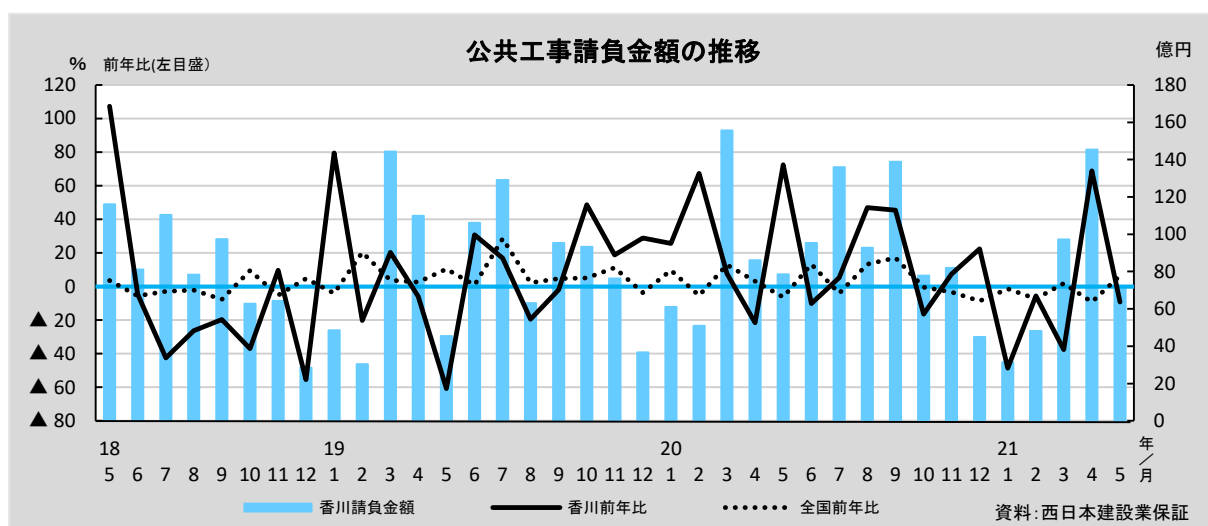
5月の新設住宅着工戸数は449戸で、前年同月比+38.6%と、2カ月連続で増加しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+32.2%、**貸家**で同+15.5%、**分譲住宅**で同+107.5%となった。

公共投資

高水準で推移している

●公共工事請負金額

2カ月ぶり減少 ↓



5月の公共工事請負金額は71.4億円で、前年同月比▲9.1%と2カ月ぶりに減少しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+135.8%、**県**で同▲52.5%、**市町**で同▲15.1%となった。

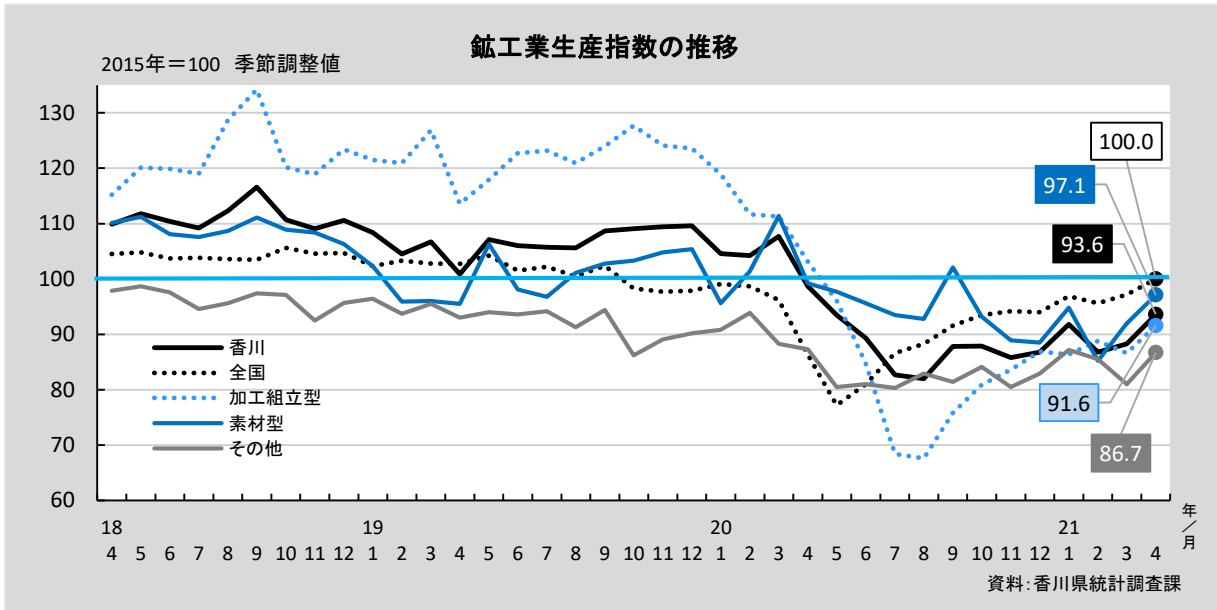
4~5月の累計では前年同期比31.6%増加している。

生産活動

緩やかに持ち直している

● 鉱工業生産指数

2 カ月連続上昇 ↑



4月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は93.6（前月88.3）となり、2カ月連続で上昇した。

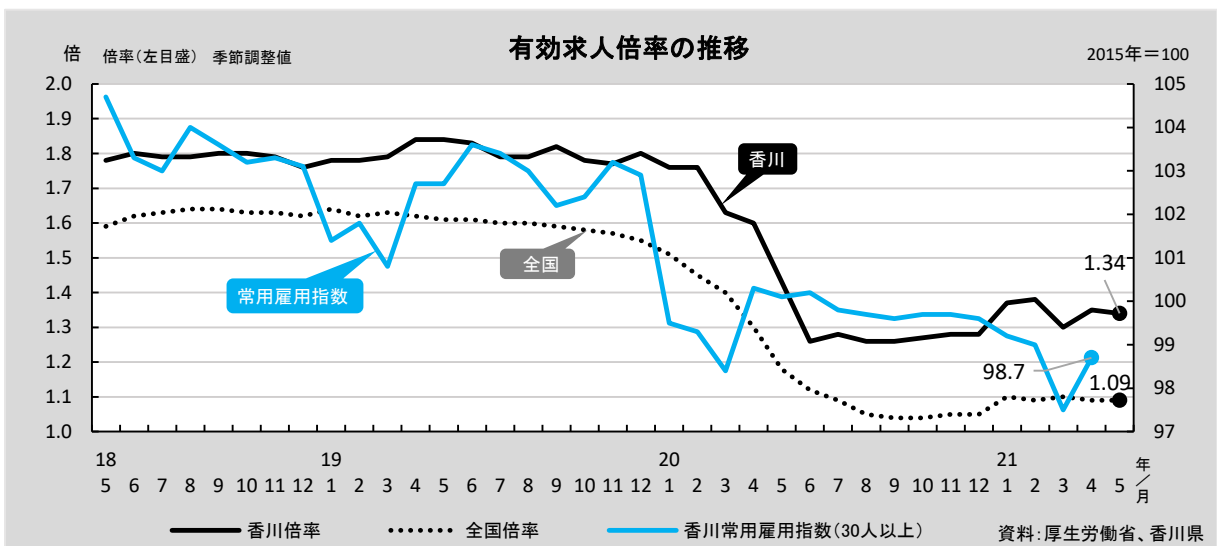
業種別では、素材型の非鉄金属工業（電気金など）は前月比+19.2%、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は同+16.9%と上昇した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（塩など）は同▲1.6%と低下した。

雇用情勢

弱い動きとなっている

● 有効求人倍率

2 カ月ぶり減少 ↓



5月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.34倍（全国11位）と前月より0.01ポイント低下した。

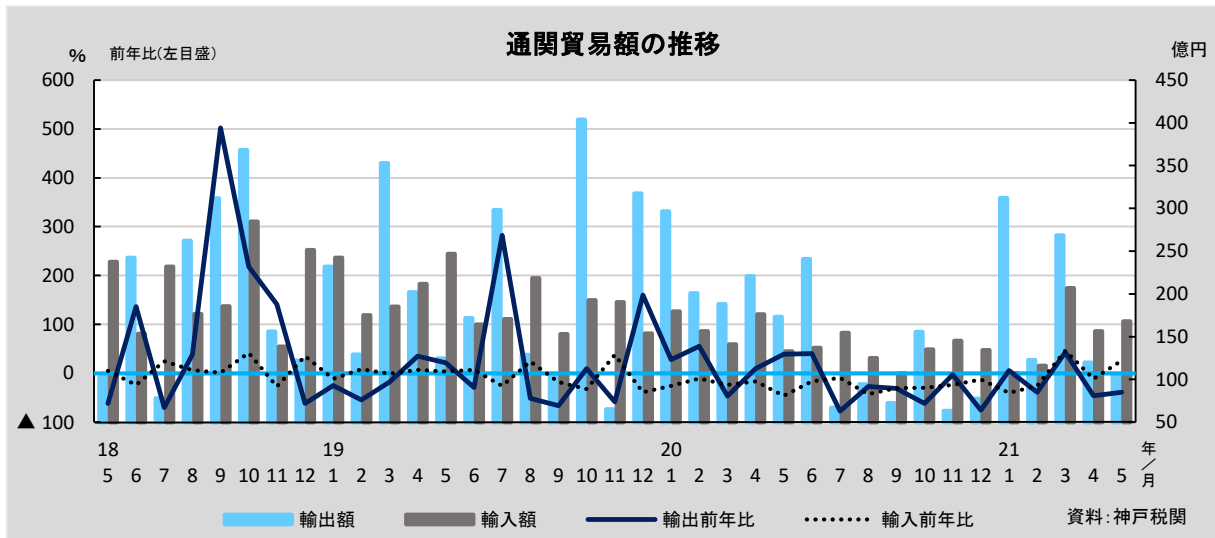
新規求人（原数値：前年同月比）は、卸売業・小売業、サービス業、医療・福祉等で増加し、全体で+10.1%と2カ月連続で増加した。

4月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、98.7となり、前年同月比は21カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.73
事務的職業	0.50
販売の職業	2.11
サービスの職業	2.71
生産工程の職業	1.84
輸送・機械運転の職業	2.16
建設・採掘の職業	7.21
運搬・清掃・包装等の職業	0.91

貿易

輸出・輸入ともに弱い動きとなっている



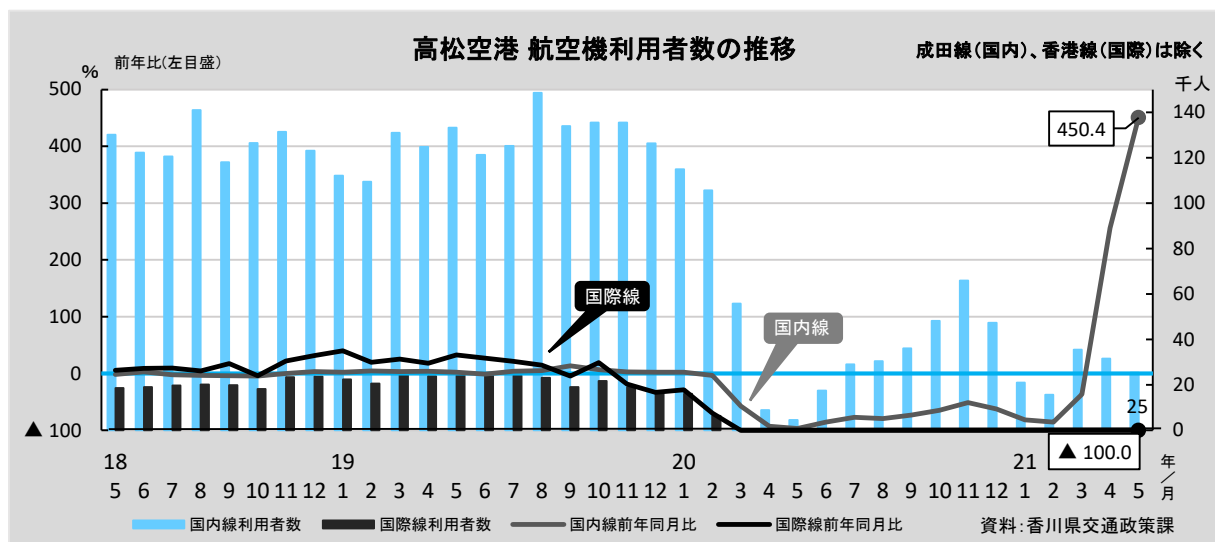
5月の輸出額は前年同月比▲38.6%の106.4億円、輸入額は同+26.3%の167.9億円となり、差し引き61.5億円の入超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が前年同月比▲68.2%の32億円となった。輸入は、前年同月にゼロだった液化天然ガス輸入額が25億円となった。

交通

国内線は2カ月連続増加、国際線は15カ月連続全面運休

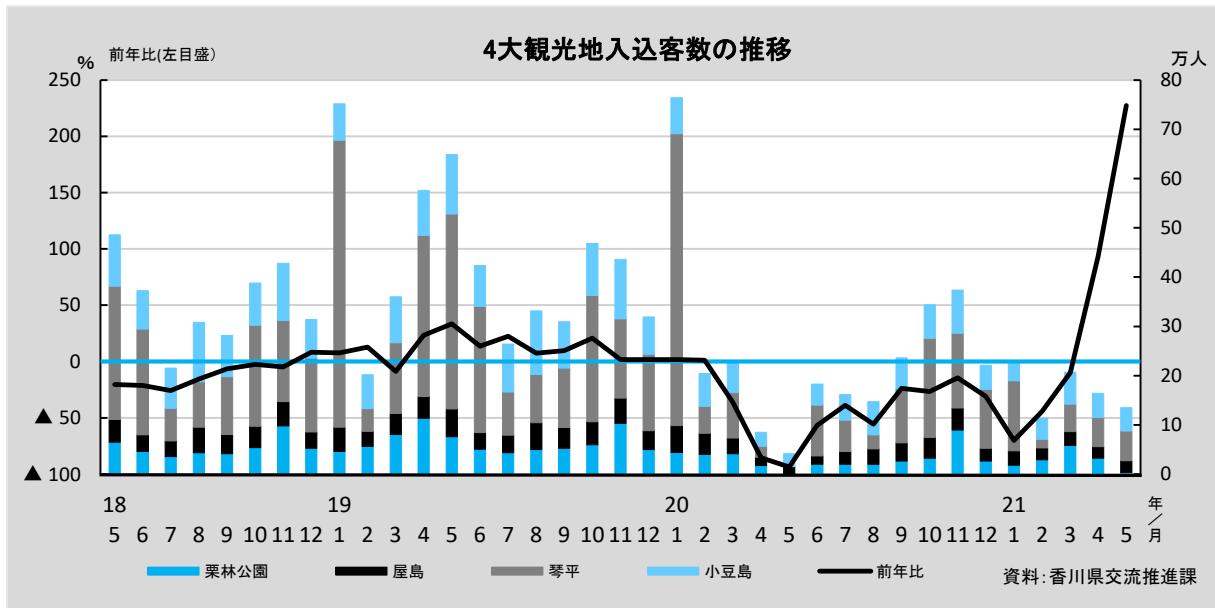
●高松空港旅客輸送実績



5月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が25,419人(前年同月比+450.4%)となり、2カ月連続で増加した。羽田線は24,752人(前年同月比+436.0%)、那覇線は667人(前年0人)となった。ただし、コロナ禍以前の2019年5月比は▲80.9%と厳しい状況が続いている。

国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により15カ月連続の全面運休となった。

●主要観光地入込客数

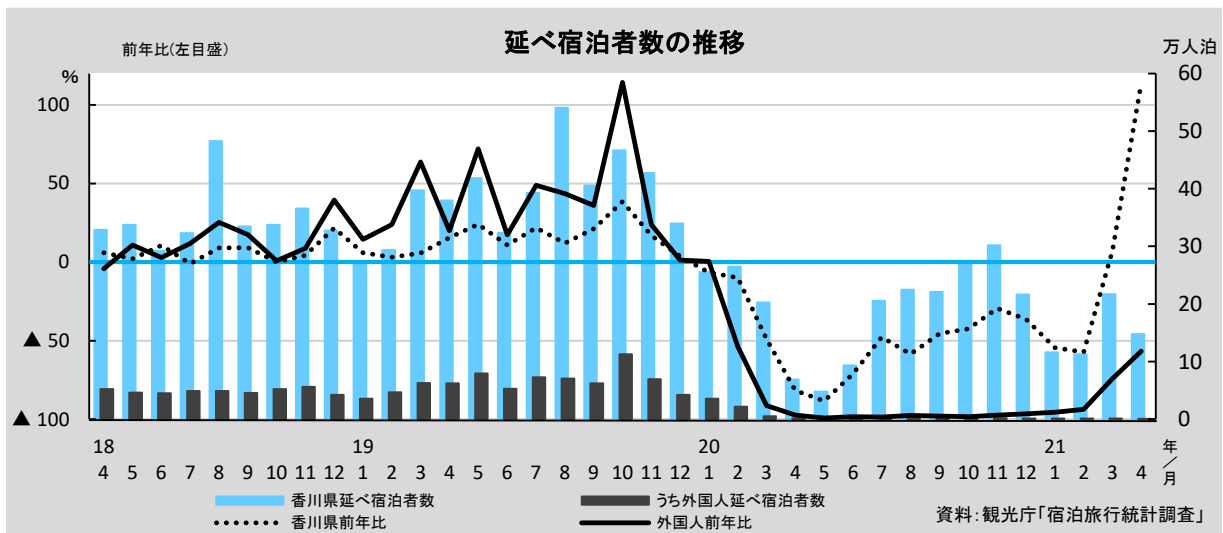


観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
5月(人)	前年同月比	3,525	皆増	24,054	61.1%	60,000	7400.0%	47,666	86.4%	135,245	227.4%
1~5月累計(人)		141,584	▲1.7%	128,364	▲20.1%	335,000	▲56.0%	244,848	▲5.4%	849,796	▲35.8%

5月の主要観光地の入込客数は、前年同月比227.4%と2カ月連続で増加したが、コロナ禍以前の2019年5月比では▲79.2%となり、回復にはほど遠い状況が続いている。

1~5月の累計では前年比▲35.8%となった。

●延べ宿泊者数



4月の延べ宿泊者数は147,830人で、前年同月比+113.9%と2カ月連続で増加したものの、コロナ禍以前の2019年4月比では▲61.0%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は710人となり、前年同月比▲56.7%と15カ月連続で減少した。